

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要

令和4年度

2. 分野別状況（2）地域活性化総合特区 ③アジア拠点化・物流分野

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ 目標に向けた取組の進捗	Ⅱ 支援措置の活用と地域独自の取組の状況	Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
ながさき海洋・環境産業拠点特区 (長崎県、長崎市、佐世保市、西海市)	2.4	2 進捗度 ・県内造船所による高付加価値船・省エネ船の建造量 64% 等	2.7 規制の特例等 ・同一特定倉庫内での保税工場の指定による物流コストの削減(関税法) 地域独自の取組 ・ものづくり支援補助事業 ・海洋エネルギー関連産業創出促進事業 等	2.5	・評価指標(1)から(3)のいずれも、初年度や前年度と比較しても、同じか更に減少している点はかなり厳しいと評価せざるを得ない。より具体的に成果につなげる取組として何をしていくのかよく検討する必要がある。 また事業方針の転換に伴い、必要であれば、評価指標の再検討も考えてもいいかもしれない。 ・五島市沖浮体式洋上風力発電ウィンドファームが運転開始に向けて着実に進んでいることは朗報だが、風力発電一般については近年では中国が先んじている模様であるためピード感のある発展を期待する。 ・高付加価値・省エネ船に強い造船技術、生産効率の高さなどの本特区がもつ非常に高い優位性が、評価指標の成果に結びついていない理由として、国内造船業の事業再編や、国際的な価格競争といった厳しい環境にあることは理解できるが、それが長年同じ課題として続いてしまっていることが懸念される。 国際的な周知など、ソフト面での新しい打開策の実施や検討などがどの程度なされているのかも知りたい。 生産効率向上や生産現場の高度化、人的資源蓄積など数値には表れない取組が充実して行われていることは、地域独自の取組や、現地調査からも伺うことができ、高く評価できる点である。 ・財政支援など、地元の努力はわかる。外的要因も大きいだろうが、やはりカーボンニュートラルの視点からも我が国の技術はもっと競争力があると思われるので、もう少し戦略を変えて行ってみてはいかがだろうか。 なお、洋上風力はちょっとトラブルが大きいようなので、注意が必要である。